記者発表資料

平成22年３月５日

東 北 地 方 整 備 局

平成20年度道路陥没リスク診断業務の検証について

～（財）道路保全技術センターの業務が粗雑であったことを確認～

東北技術事務所で平成２０年度に業務発注を行った「平成２０年度道路陥没リスク診断業務」については、関東地方整備局が発注した同様の業務において、空洞の見逃し等があったことを踏まえ、当該業務の内容について検証を実施して参りました。

具体的な検証の実施方法は、調査を実施した東北地方整備局管内の国道１５路線を対象に

・探査車で捉えた信号波形を再確認し、その信号波形が「空洞の可能性のある波形」であったにも関わらず、国土交通省へ報告されなかったものがあったのかどうかの判定を行うとともに、

・これらの箇所について、現地検証（ハンディ型地中レーダー探査、スコープ調査）を実施し、空洞を確認しました。

１．検証の結果について

○　路面下空洞探査車で得られた信号波形（車道部）のうち、第三者である専門家による確認の結果、国土交通省に報告すべき「空洞の可能性がある信号波形」を発見できず、未報告となった１１箇所を誤りと判断しました。

○　この未報告箇所のうち6箇所(岩手県大船渡市１箇所、宮城県仙台市２箇所、山形県最上郡戸沢村２箇所、 山形県酒田市１箇所 ）で現地検証したところ、仙台市内の1箇所で空洞を発見し、見逃しを確認しました。

（見逃されていた空洞の例→別紙１　参照）

空洞の発見数について

場　　所	箇所数	確認日
国道４号（仙台）	1	2月10日（水）

●空洞の規模：縦1.6m×横1.5m×厚さ0.1m
（発生深さは、路面より43ｃｍ）

当該箇所については、通常の通行に支障はありませんが年度内に補修を実施することとしております。

２．検証の総括

１．のとおり 、探査車探査の信号の分析結果に誤りや見逃しが存在するとの結論に至り、業務を粗雑にしたと判断しました。

この結果を受け、「指名停止２ヶ月」の措置が財団法人道路保全技術センターへ出されたものです。

３．今後の対応

平成20年度に行った道路陥没リスク診断業務は、上記のとおり業務を粗雑にしたものであり、かかる事態に鑑み 、路面の陥没事故が無いよう路面の安全性の確保を図るため、下記の対応を行ってまいります。

○　平成20年度業務の対象区間については、日常の道路パトロールにおいて路面の観察を強化したパトロールを実施し 、路面の変状・陥没の前兆を探知するよう努めます。

○　パトロールで陥没の可能性がある等の路面の変状が見つかれば 、直ちに路面下空洞探査などの詳細調査を実施、緊急的対応を行います。

○　平成22年度においても路面下空洞調査業務を早期に発注し、陥没未然防止に努めてまいります。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　道路部

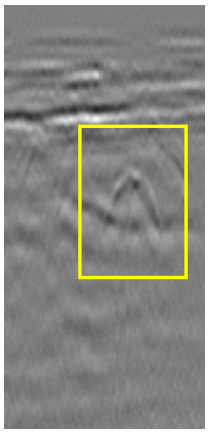
仙台市青葉区二日町９－１５　TEL 022-225-2171

道路管理課長　　木我（きが）　茂　（内線4411）

別紙１

①　探査車で捉えて未報告であった信号の誤りの例

例）空洞の可能性のある信号を発見できず未報告であったもの。

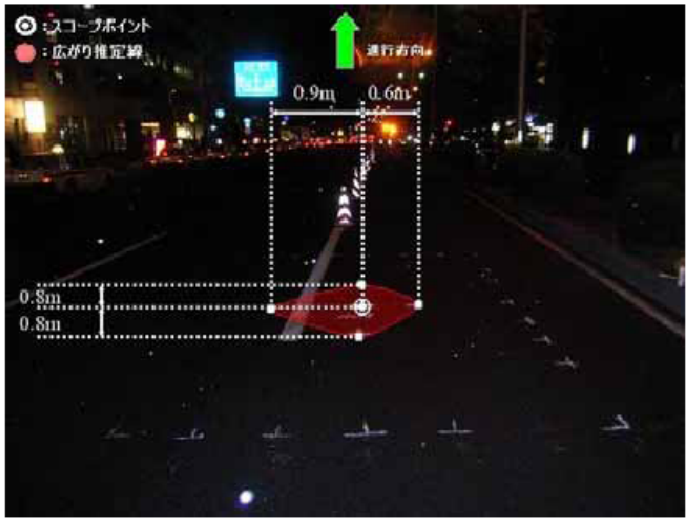


信号の報告なし

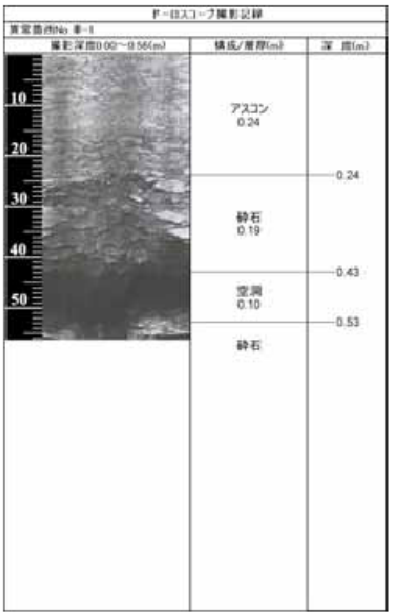
②　見逃されていた空洞の例

例）探査車で捉えた信号を発見できず、空洞が見逃されたもの。

空洞の広がり



ドーロスコープ撮影記録



空洞規模

発生深度(m)	0.43	空 洞 厚(m)	0.10
縦断方向(m)	1.6	横断方向(m)	1.5
面　　積(m^2)	2.40	体　　積(m^3)	0.24

＊本文、1.「検証の結果について」の残る5箇所の現地検証については、年度内に実施します。